令和３年度＜**幼児教育**＞

友達と関わりを深めながら，協同性を育む

―遊び込める環境づくりの工夫を通して―

宜野湾市立志真志幼稚園　教諭　安里　美和子

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
１　協同性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（１）協同性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（２）協同遊びの捉え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（３）「協同性」の姿を育てるプロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3
（４）協同して遊ぶようになる過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（５）協同して遊ぶことで育つ力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
（６）小学校の学びへの発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
（７）友達と協同する遊びの特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
２　環境構成について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（１）協同遊びが展開できる環境構成とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（２）遊び込める環境とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（３）協同性を育むための教師の援助・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
（４）友達との関わりにおける年間指導計画について・・・・・・・・・・・・７～８
Ⅳ　検証保育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
１　主な活動名，２ねらい，３内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
４　活動設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（１）教材観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（２）幼児観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（３）指導観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（４）活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（５）本時の指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
５　検証保育研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（１）保育者の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（２）意見及び感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（３）指導助言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
Ⅴ　研究の検証方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
１　幼児理解の方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
２　教師の援助の工夫について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
３　評価の視点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
Ⅵ　研究視点の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
１　保育の振り返りとエピソード記録から幼児の姿を捉える・・・・・・・・・・14
２　検証前の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
３　検証保育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
４　検証のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
Ⅶ　研究の成果と今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
１　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
２　今後の課題と対応策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
＜参考文献＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

〈幼児教育〉

友達と関わりを深めながら，協同性を育む
－遊び込める環境づくりの工夫を通して－

宜野湾市立志真志幼稚園　教諭　安里　美和子

Ⅰ　テーマ設定の理由

平成３０年度施行の幼稚園教育要領では，幼稚園教育において育みたい資質・能力を明確化すると同時に幼稚園修了時の具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を新たに示した。その中で〔協同性〕は「友達と関わる中で，互いの思いや考えなどを共有し，共通の目的の実現に向けて，考えたり，工夫したり，協力したりし，充実感をもってやり遂げるようになる。」とある。幼児期に育まれた協同性は，小学校における集団生活の中で，目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し，意見を交わし合う中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組むなど，教師や友達と協力して生活したり学びあったりする姿につながっていく。

近年，少子化や核家族化，人間関係及び地域とのつながりの希薄化，情報機器の発達等の社会環境の変化に伴い，テレビゲームやインターネットの影響で映像を模倣しながら遊ぶ幼児の姿が見られる。また，昨今は新型コロナウィルス感染症拡大のため，幼児の遊びや活動が制限され，友達との遊びの楽しさを十分に味わう場面が少ない状況にあり，人と関わる力の育ちに大きく影響を及ぼすことが危惧されている。このような状況であるからこそ，幼稚園においては，教師や大勢の友達と過ごす集団生活の場を保証し，様々な体験や豊かな心を育む教育活動を実践することが重要である。友達や教師との関わりの中で，自分の考えや思いを伝え合いながら，協力して活動に取り組み，時には自己主張のぶつかり合いや友達との折り合いを付けるなど多様な感情体験をすることで，友達と遊ぶ楽しさを味わいながら主体性や社会的態度を身に付けていくのである。

本園の園児の実態として，友達を誘って興味をもった遊びを見つけて積極的に遊びを展開しながら取り組む幼児もいるが，友達と遊びたい気持ちがあるものの，どう関わっていいかわからず友達の遊びを傍観する様子が見られる。気の合う友達と一緒にいるが，自分の気持ちを伝えることができずに友達に合わせて遊びを進め，遊びが転々としたり，同じような遊びを繰り返して，遊びや活動に発展性が見られない幼児もいる。これらの実態を踏まえ，一人一人の思いを理解しながら気持ちに寄り添ったり，幼児間をつなげ友達との関わりや思いの伝え方などを一緒に考え，方向付けてきた。しかし，幼児が互いに共感し合いながら遊びを続ける援助が不十分であった。また，教師による環境構成は適切であったのか等の課題があげられる。

そこで本研究では，教師による環境（人的，物的，空間的）づくりの工夫を通して，幼児の遊びの質が変化し，友達と関わりが深まることで，協同性を育むことができるであろうと本テーマを設定した。

Ⅱ　研究構想図

国教育施策
○幼稚園教育要領
・幼稚園教育において育みたい資質・能力
「知識及び技能の基礎」
「思考力，判断力，表現力等の基礎」
「学びに向かう力，人間性等」
・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

県教育施策
○沖縄県教育振興基本計画
○黄金っ子応援プラン
（第２期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計）

市教育施策
○第二次宜野湾市教育振興基本計画
○宜野湾市教育大綱

園教育目標
○元気な子（心情）
○考える子（意欲）
○思いやりのある子（態度）

→

幼児の実態
○友達を誘って，好きな遊びに取り組み自分達で考えながら遊びを進めることができる
●友達の遊びを傍観したり，好きな遊びを見つけるまでに時間を必要とする子もいる。
●同じ遊具や用具を使う遊びを楽しみ，偏った遊びが見られる。

教師の実態
○幼児の興味・関心に合わせて環境づくりを行った。
●幼児友達と一緒に遊びを楽しむ中で，遊びを発展させたりする援助や工夫が必要である。

↓

めざす幼児像
○周囲の環境に好奇心や探究心を持って自らかかわる子
○相手の思いを感じ取りながら話を聞いたり考えたりすることができる。

↓

研究テーマ

友達と関わりを深めながら，協同性を育む
－遊び込める環境づくりの工夫を通して－

↓

研究視点
幼児が主体的に遊び込めるような援助や環境構成を工夫することで，友達と目的を共有しながら，より関わりを深め，協同性が育まれていくであろう。

↓

研究内容

研究テーマについての理論研究
1　協同性について
2　環境構成について

研究に向けて保育検証
1　園児の実態把握と幼児理解
2　教材研究，環境構成
3　保育指導案の作成
4　検証保育の実施

↓

検証保育の計画・実施・分析・考察

↓

研究のまとめ・研究成果と今後の課題

Ⅲ　研究内容

１協同性について

（１）協同性

幼稚園教育要領解説(文部科学省 2018)は，幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより，幼稚園教育において育みたい資質・能力がどういう姿として現れてくるかを示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(表１)を明確化したその中の③協同性では，「友達と関わる中で，互いの思いや考えなどを共有し，共通の目的の実現に向けて，考えたり，工夫したり，協力したりし，充実感をもってやり遂げるようになる。」と記されている。幼児は友達との関わりを通して，様々な出来事の中で，嬉しい，楽しい，悔しい，悲しいなどの多様な感情を味わうことで,友達との関わり方を学んでいく。友達との関係が深まっていくと，共通の目的を見出して行動を共にしていくようになる。その目的の実現に向けて，自分の思いや考えを出し，相手の意見を受け入れながら，協力するようになる。友達と共に遊ぶことや活動することを通して，自己発揮しながら時には意見の相違で葛藤することもあるが，相手の思いに気付き，互いに認め合う関係ができることで協同性が育まれる。

表１　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
（幼稚園教育要領解説(文部科学省 2018)）

①健康な心と体
②自立心
③協同性
④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活との関わり
⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重
⑧数量や図形，標語や文字などへの関心・感覚
⑨言葉による伝え合い
⑩豊かな感性と表現

（２）協同遊びの捉え

協同遊びについて保育用語辞典(刑部郁子 2016)では「協同遊びとは，複数の子どもが力を合わせて取り組む遊びのことをいう。(中略)ひとりではできない遊びを展開させる。時には他児とのぶつかり合い，けんかを引きおこすが，それでも子どもは他児と遊ぶことにいっそうの喜びを感じ，遊びをつくり上げる充実感をあじわうのである。」と記されている。幼児が協同して遊ぶようになるためには，一人一人がその子らしく遊ぶことができるように，自発性を育てる必要がある。自己を表出して遊びを展開しながら少しずつ周囲との関係を築き，その中で一人より友達と遊ぶことが楽しいことに気付き，自己を主張することや自己を抑制することを体得してくことで，自己を高め，自発性をさらに発揮し遊びを進めていく。このような中で，幼児の様々な側面の発達が促され，幼児は総合的に発達を遂げていく。したがって，協同遊びを支える保育を展開していくことは，幼児期の教育にとって重要なものである。

（３）「協同性」の姿を育てるプロセス

「協同性」が育まれていく過程の中で大事なのが,幼児が安心感をもって園生活を過ごすことである。それは教師との信頼関係を築くことで生まれてくる。教師がありのままの幼児を受け入れ，見守り，支えることで幼児は教師への信頼関係を育み，自己発揮することができるのである。教師との信頼関係が築かれると，友達への興味も広がり，関わりが生まれてくる。その中で，友達と一緒に遊ぶ楽しさや面白さを味わう。さらに，幼児の主体的な活動の中から友達との考えや思いを交わし，新たな発見をすることで共通の目的が見えてくる。その目的を実現するために言葉でのやりとりが必要となってくる。そこで，無藤隆(2018)は，「協同的な遊びが展開するために重要なのが対話です。(中略) 誰かの気付きや発見，興味・関心などが，そのことをもっと探究していこうという原動力になります。」と述べている。教師が幼児同士の思いをつないでいくという視点からも対話のもつ意味が重要となる。協同的な遊びが展開する中で，様々な思いや考えを伝え合うことで，多様な対話や情報収集，試行錯誤する力が育つと考える。

（4）協同して遊ぶようになる過程

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会の研究報告書によると３歳から５歳までの幼児期の発達に即した，３つの発達の時期における経験内容を明らかにした。

第Ⅲ期において，仲間と相談したり刺激しあったりしながら関係を深め，自分の見方や考え方を広げていく「協同する経験」が可能となるには，第Ⅰ期において，空間や時間を共有し，一人一人の幼児が安心して過ごせるようになる「協同する生活の経験」を，第Ⅱにおいて，様々な人との関わりやつながる喜びを感じ，自己を十分に発揮して遊ぶ「協同の基盤となる経験」をそれぞれに積み重ねていくことが重要である。協同して遊ぶ幼児の姿は５歳になるとすぐに現れるのではなく，こうした発達過程を経験することによって育まれていく。

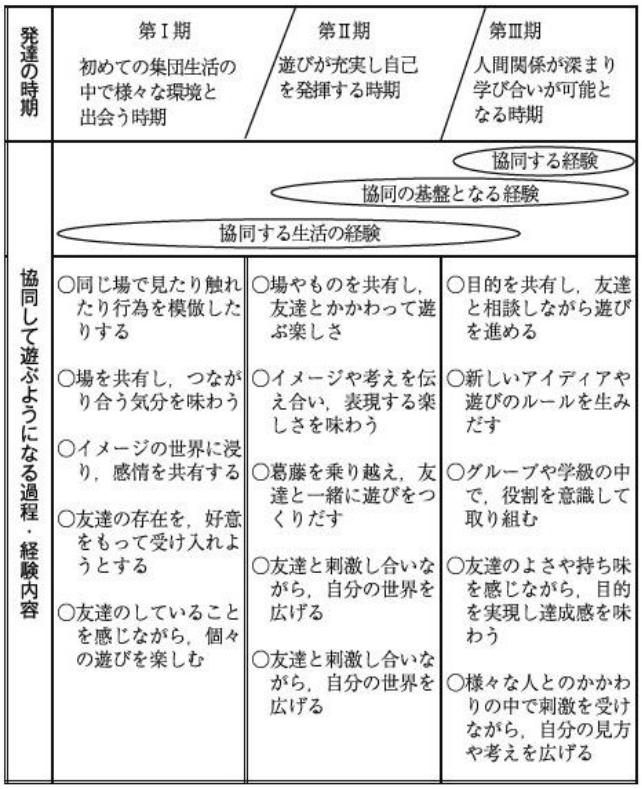

図１　協同して遊ぶようになる過程
【全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会】

（5）協同して遊ぶことで育つ力

幼児は協同的な遊びの中で，友達と共に遊びや活動をする楽しさを味わい，様々な体験や学びを重ね共に育つ。その中で育つ力を『保育内容人間関係』（小田豊・奥野正義編著(2005)）を参考に図２にまとめた。

コミュニケーション能力

友達との関わりの中で，自分の思いや考えを相手にわかるように伝えたり，相手の話にも耳を傾けられる能力である。幼稚園では，友達と一緒に遊びや活動を共に行うことでコミュニケーション能力を発達させる。

思いやりをもつ心

友達との遊びや相互作用を通して自ら，自分の気持ちを抑えたりしながら，友達との関わりを築いていく。友達の思いや考えに共感した時に，相手を思いやる行動へとつながっていく。

きまりを理解し守る力

幼稚園では道具や用具を使う際に順番に使用するなど，きまりは，幼児同士が遊びを展開する中で自然自発的にできあがったり，教師からの提案によって決定づけられたりする。友達と遊ぶことで，決まりやルールを守ろうという気持ちが育まれていく。

いざこざを解決する力

友達との遊びの中で，いざこざやトラブル，葛藤する気持ちが生じるようになる。こうしたいざこざやトラブルは、相手の思いを理解したり，きまりを学んだりする機会となるなど，幼児の成長に欠かせないものである。

図２　協同して遊ぶことで育つ力

（６）小学校の学びへの発展

幼稚園教育要領解説（文部科学省 2018）では「幼児期に育まれた協同性は，小学校における集団生活の中で，目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し，意見を交わし合う中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組むなど，教師や友達と協力して生活したり学びあったりする姿につながっていく。」と記されている。幼稚園生活で友達との関わりの中で，互いに影響し合いながら，様々な体験をし，自ら課題を見つけ取り組んだり，友達と協同しながら幼児の遊びや活動は発展していく。それは，小学校以降の学びの基礎を形成するものであり，それぞれの力を発揮し合うことでより充実した学び合いをもたらす姿であると考える。

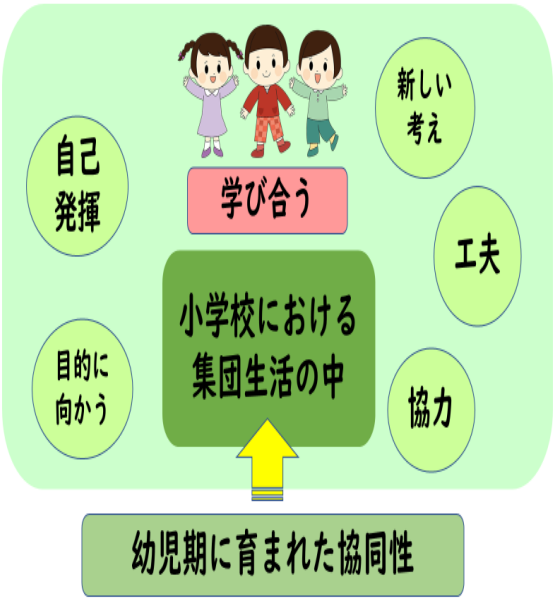

図３　小学校の学びへの発展
（著者作成）

（７）友達と協同する遊びの特徴

小田豊（2004）は「園生活を送るなかで，友達との関わりはさまざまな過程を経て変容する。」と述べ，入園から園生活の終わりまでのよく見られる友達との関わりの変容を，成長の過程を追って下記の表２で表した。

表２　友だちとのかかわりの変容（小田豊（2004））

①園環境に対して安心感をもち，自分の遊びを始める。
②好きな場所で，自分の好きな遊びをする。同じ場で遊ぶ友だちもいるが，あまりかかわりはない。
③同じ場で遊ぶなかで，かかわりが生まれてくる。
④友だちと楽しさを共有するようになる。一方で友だちから断られたりして辛い思いもするようになる。
⑤いっしょに遊ぶ友だちに対して「仲間」の意識が生まれる。
⑥仲間の間で，結束意識が強まる。そのなかで，仲間以外を入れないようにすることや，仲間になるために追従することも出てくる。
⑦意見の違いなどで，さまざまないざこざやトラブルが生まれ，葛藤や挫折感を感じる。
⑧友だちと楽しく遊ぶために，相手にあわせることや，がまんすることが必要なことを学んでくる。
⑨何か活動をするときに，意見を出し合うようになり，力をあわせてやり遂げるよろこびを感じるようになる。
⑩相手の特徴がわかるようになり，お互いに認め合って遊ぶようになる。

実際の幼児の姿と照らし合わせると，①幼児は新しい環境の中で，安心して過ごす場や空間と出会い，自分の好きな遊びを見つけ出し取り組む。②遊びを進めることで友達の存在に気づき，③徐々に関わりが生まれてくる。また，④共に遊びや活動をする中で，同じ目的が生まれ，工夫したり，協力したりする。⑤一緒に過ごすことで，特定の友達と安定した関係が生まれる。⑥友達との仲が深まることで，⑦相手とぶつかる場面が生じ，葛藤や挫折感を感じる。⑧相手の考えを理解し，自分の気持ちに折り合いをつけ学んでいく。⑨これらの経験を積み重ねる中で，みんながよりよく生活するためにはどうすればよいのかを体験的に学び，⑩互いに認め合う関係が生まれてくる。

このように協同性とは，保育の中で他者と関わることで，互いに学び合い，同じ目的に向けて協力していくことで協同性が育まれる。また，幼児期に育まれた協同性は小学校以降の教育の基盤を形成することへとつながる。

２　環境構成について

（１）協同遊びが展開できる環境構成とは

協同遊びの展開には，友達と共通の目的を持ち，意欲的に環境に関われる，物的，人的，空間的環境等，幼児のまわりのすべてのことがらが相互に関連していく環境構成が必要となる。「幼児期から児童期への教育」（国立教育政策研究所教育課程研究センター(2005)）を参考に表３にまとめた。

表３　協同遊びが展開できる環境構成

幼児同士の交流が自然に生まれてくる環境構成 ・幼児の興味や関心に沿った素材や道具等に対して，友達や教師が楽しそうに関わっている姿を見て，自分も同じようにやってみたいと思える空間をつくっていく。幼児同士が自然と関わったり，助け合ったり，自分の順番を待ったりする環境の中で，楽しさや我慢することの感情を共有し，協同性の芽を育んでいく。
少人数での活動を大切にする環境構成 ・友達との関わりを通して，他者の存在を意識することから自我の感覚が強められ，一人でいるときよりも他者がいることで，自分の良さに気づく。少人数での活動の中では，自分の世界が受け入れられる喜びやはねつけられても何とか理解してもらおうとする心が育っていく。
学級全体で活動をする環境構成 ・少人数での活動を大切にしながら，学級全体で行う活動では，クラスの仲間を意識できるような集団遊びを取り入れることにより，仲間と一緒だからできていく楽しさ，友達の考えや行動を自分の中に取り入れたり，自分の考えや行動を友達が取り込むことでつながっていく楽しさや面白さ，一体感が生まれていくことや集団の中のルールの意味を感じることが，協同する学びである。
知的な広がりのある協同的な活動を行う ・幼児期後半の幼児は仲間と遊んだり作業したりすることを楽しむと同時に目的をもって遊びや作業を進めていく。幼児の思いや考えを汲み取り，幼児と対話しながら幼児の思考を深めていけるような知的な刺激を与える。
学び合いや話し合いの場を設ける ・幼児が展開する様々な遊びや活動において，幼児同士が学び合えるような場を設けることが必要である。話し合いを通じて，新しいアイディアを思いついたり，自分の感情を静めたりしていく経験を豊かにもつことが幼児期の協同性の質を高めていく。
異年齢との学び合いの場を設ける ・異年齢との活動も，協同性の質を高めていくために必要である。自分より年下の友達と関わることで，自発的にお世話をしたり，積極的に教えようとする。自分より年上と関わることで，活動や振る舞いに憧れるようになる。このような経験は，他者との関わることの新たな喜びと自信をもたらす。異年齢との活動の経験が，その後の同年齢での協同的な活動の質を高めていく。

（２）遊び込める「環境」とは

幼児にとって遊びは生活そのものであり，幼児は遊びの中で様々な経験をしている。幼児が幼稚園の環境に主体的に関わることは，心身の調和のとれた発達へとつながる。幼稚園は集団保育の場であり，共に喜び，感動してくれる友達や教師がいる。他者の存在によって，幼児は自発的な活動を楽しむようになる。

幼児が自発的な活動を楽しめるように，教師は幼児の「あれやりたい」「こうしたらどうなるの？」といった気持ちに寄り添って，幼児自身が「次はこうしよう」と好奇心を持って遊び進める環境をつくり，十分に遊び込める時間を保障していく。また，教師は，環境の中にあるそれぞれのものの特性を生かし，その環境から幼児の興味や関心を引き出せるような「環境」をつくっていくが，それは，固定的なものではなく幼児の活動の展開に伴って意図的に変化させていく。

（３）協同性を育むための教師の援助

幼児は，友達と一緒に楽しく遊んだり活動する中で，互いのよさや特性に気付き，友達関係を形成していく。友達関係が広がったり深まることで，共通の目的やイメージを見いだし，工夫したり，協力したりしながら園生活を楽しんでいく。

教師は一人一人の幼児が十分に自己発揮しながら，友達と多様な関わりがもてるように援助し，幼児が遊ぶ中で，共通の願いや目的が生まれ，友達と協同する楽しさを味わえるようにすることが大切であると考える。幼児が幼稚園生活で様々な経験を重ね，豊かな人間性や協同性を育むための教師の援助として以下の表４にまとめた。

表４　協同性を育むための教師の援助

幼児同士の関わりが生まれる援助 ・幼児一人一人の遊んでいる姿を見守りながら，教師も一緒に遊びに加わり，幼児同士の遊びのつなぎ役をしたり，友達の思いに気づけるような言葉かけをする。同じ場で幼児がそれぞれが違う遊びをしていても，幼児たちは知らないうちに，他の幼児のまねをしたり，周囲のものや遊具などとの多様な関わり方を学んでいるのである。
一緒に遊びや活動をしている幼児同士の把握 ・協同性を育むために日頃から幼児の友達関係を把握しながら，幼児同士の関係が深まるような意図的な声かけや援助を重視する。幼児同士の関わりの中で，個々のアイディアをつないだり，幼児自身で課題を実現できるような手がかりを与えたりする。
友達の良さに気づいて一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる援助 ・集団の中で一人一人のよさが発揮され，影響し合って，幼児同士が互いに学び合える関係が築けるように，関わり合って学ぶ力が育つように援助する。一人ではできないことも力を合わせれば可能になるという気持ちが育つ言葉かけをする。
相手の思いに気づける援助 ・幼児は自己を発揮するようになると，主張と主張がぶつかり合い，なかなか自分の思うようにはいかないことを体験する。相手とのやり方が違ったり，思いや意見が違ったりして，いざこざや心の葛藤を味わう。教師は幼児の自己主張を認め，その中で起きてくるトラブルの機会を捉え，互いの思いや考えに気づけるように仲介役となり，友達の思いに気づくように丁寧に関わっていく。
友達と一緒にやり遂げた達成感や満足感を味わえる援助 ・幼児一人一人が自己発揮できる場や繰り返し試行錯誤する時間を十分に確保することで，友達と協力して活動する楽しみを味わうことができる。そのためにも，幼児同士が認め合い，遊びに高まりや学び合いができるよう，話し合いの機会をつくることが必要となる。友達と考えが合う楽しさが感じられるような共通体験の場を多く設定する。

（４）友達との関わりにおける年間指導計画について

幼稚園教育要領解説（文部科学省 2018）において「一人一人の幼児に幼稚園教育のねらいが着実に実現されていくためには，幼児が必要な体験を積み重ねていくことができるように，発達の道筋を見通して，教育的に価値のある環境を計画的に構成していかなければならない。」と記されている。幼児の育ちの節目に即したふさわしい生活が展開され，それぞれの発達時期に，どのような経験が必要か等を長期的に見通し，指導の内容や方法を予測しながら年間指導計画（表５）を作成した。

教師は幼児と共に生活する中で，幼児が今，何を必要とし，どのような育ちに向かっているのか，その育ちを保証するために必要な環境や援助を意識して作成を行い，見直していく。

表５　友達との関わりにおける年間指導計画（令和３年度志真志幼稚園年間計画を参考に筆者作成）

☆…新入園児　　★…進級児

期	第Ⅰ期 （４月～５月上）	第Ⅱ期 （５月中旬～７月）	第Ⅲ期 （９月～10 月中旬）	第Ⅳ期 （10 月中旬～12 月）	第Ⅴ期 （１月～３月）
発達の過程	**～新しい生活の はじまり～** ☆教師や友達との関わりの中で安定して過ごす。 ★年長児になったことを喜び，人やものとの関わりを楽しむ。	**～友達や先生に自分の思いを伝えたり自分なりに表現したり～** ・やや固定したグループでのイメージを共有した遊び。 ・自我のぶつかり合い。	**～それぞれの力を 出し合いながら～** ・仲間意識の芽生え。 ・自分なりの課題を見つけて取り組む。 ・身体の諸機能が発達。	**～共通の目的に 向かって～** ・充実した生活。 ・友達関係を深めながら個々の力を十分に発揮し生活に取り組む。	**～一年生へ向かう 喜びを感じ～** ・自信をもって行動し，自分達で生活を進めていく。 ・知的好奇心の高まりを見せる。 ・けじめのある生活。
幼児の姿	・入園，進級した喜びを感じ新しい環境に自ら関わる子，なかなか馴染めずにいる子がいる。 ・一緒に進級した子，同じ保育園出身の子同士で遊びを選び，安心して遊ぶ姿がある。	・遊びが活発になる。それぞれの持つイメージを近づけて遊びを進めていこうとする。 ・好きな遊びを通して仲間ができるようになるが，遊び方をめぐってトラブルも起きやすくなる。	・遊びが広がり，様々なことに興味関心を抱く。 ・試したり，競ったりする遊びにも意欲的に関わる子が増え，互いに刺激し合いながら取り組む姿がある。	・運動会の経験を遊びに取り入れたり，小学校を身近に感じたりしている。 ・共通の課題に向かった取り組みの楽しさが分かり，意欲的に生活を進めていこうとする。	・文字や数字を取り入れた遊びに興味を持ち，友達同士遊びを進める。 ・クラスにまとまりがみられる。 ・もうすぐ一年生という自覚から生活態度も落ち着きを見せ，自信を持って行動できる。
○ねらい・指導内容	☆好きな遊びを楽しみながら園生活に慣れる。 ★年長児になった喜びを感じ，友達と関わりながら好きな遊びを楽しむ。 ・友達や教師と好きな遊びを楽しむ。（☆） ・年中時の経験をいかし，遊びや生活を進める。（★）	○思いや考えを出し合いながらイメージを共有し遊ぶ楽しさを味わう。 ・感じたことや考えを伝えたり聞いたりする ・イメージに合う素材やイメージを実現するための用具を選び，試したり工夫したりする。	○共通した目的を持ち友達と力を出し合いながら取り組むことを楽しむ。 ・身体を十分に動かし運動遊びの楽しさを知る。 ・友達とルールを作ったり，守ったりしながら遊ぶ。	○友達とイメージを伝え合い，共通の課題をもって生活を進める。 ・友達と相談したり工夫したりして遊ぶ。 ・イメージを膨らませ様々な表現を楽しむ。 ・季節の変化に気付き自然物を使って遊ぶ。	○自分たちで遊びを発展させながら遊びや生活を進めていく充実感を味わう。 ・見通しをもって生活を進める。 ・友達と思いや考えを伝え合い，協力して遊びや生活を進める。
協同的な遊び・活動	・園の環境や気の合う友達に関わりながら好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ・友達の遊びや行動を見たり，真似をしたりする。	・友達のしていることを真似したり，一緒に遊ぼうとしたりする。 ・園やクラスの生活の仕方，約束や遊び方がわかり守ろうとする気持ちを持つ。	・遊びや活動の中で，友達の考えや行動を取り入れて一緒に遊ぼうとする。 ・自分の思いや考えを相手に伝えながら遊びや活動を進める。	・自分のアイディアを友達と共有したり，相手の思いや考えに共感したりして，遊びや活動に取り入れようとする。 ・遊びの中で役割分担をし，折り合いをつけたり，友達と相談したりして進めていく。	・自分たちで見通しを持って，話し合ったり行動したりして進めていく。 ・友達との関わりの中で折り合いをつけたり，相手の良さや集団の良さを感じる。
◇教師の援助 ◆環境構成	◇不安そうにしている子には教師が寄り添い，信頼関係を築いていく。 ◇好きな遊びを見つけて遊ぶ姿を見守ったり，教師も一緒に遊びの中に入ったりしながら，幼児の遊びたい気持ちを高めていく。 ◆友達と好きな遊びを楽しめるように遊びのコーナーを設ける。 ◆入園前に親しんでいる遊びができるような遊具を準備する。	◇教師も遊びに入りながら，友達と遊びたいという気持ちを高めていく。 ◇自分から遊びの中に入れない子や，思いがうまく伝えられずトラブルになる子には，思いを十分に受け止め，友達の中に入っていけるように仲立ちをする。 ◆幼児の思いも聞き入れながら遊具の種類や量を調整し準備する。	◇幼児の考えを受け止めながら，友達と同じイメージや興味を持って遊びが進められるようにする。 ◇幼児が互いに認め合ったり励まし合ったりしている姿を認め，友達とのつながりを深めていけるようにする。 ◆いろいろなものに見立てられるような素材を準備したり環境を整えたりする等，幼児の遊びのイメージが豊かになるようにする。	◇友達との関わりの中で，互いの良さを認めて遊びが進められるように見守り，必要に応じて言葉かけをする。 ◇自分の役割が見つけられずに困っている子や遊びから抜けてしまう子がいる時には，教師も遊びの仲間に入り共通の目的が意識できるような話し合いをしていく。 ◆自分たちで遊びを進める楽しさを感じられるよう必要な環境を予測し，準備していく。	◇一人一人が自己発揮し，友達と思いや考えを伝え合いながら，協力して取り組んだり作り上げたりしようとする過程を大切にし見守っていく。 ◇協同する経験を積み重ねながら，やり遂げた満足感を味わえるようにする。 ◆友達と一緒にじっくりと遊びが楽しめるような時間や場所を確保する。

Ⅳ　検証保育

検証保育指導案

令和３年１２月２２日（水）
年長　５歳児　すみれ組
男児 13 名 女児 14 名 計 27 名
保　育　者　安里　美和子
指導助言者　宮城　利佳子

１　主な活動名　　みんなで力を合わせて迷路を作ろう

２　ねらい　　〇友達とイメージを共有し，考えたり工夫したりしながら，遊びをつくる楽しさを味わう。

３　内　容　　・自分の考えを相手に伝えたり，友達の考えを聞いたりする中で自分の気持ちを整理しながら遊びを進める。
・様々な材料にふれ，遊びのイメージに合わせて，見立てたり，材料を使って遊びに必要な物や場をつくったりする。

４　活動設定の理由

幼稚園生活で様々な遊びや活動に積極的に取り組む姿が見られる。友達と誘い合って，一緒に遊ぶ楽しさ，面白さを感じながら遊びを展開しているが，友達との関わりの中で，自分の思いが伝わらず葛藤が生じ，一方的に相手に対して強い口調で言ったり，いざこざが起こることがある。教師は様子を見守り，共同作業を進めると同時に個々の良さを意図的に周りへ伝えることを通して関係性を整え，仲介が必要な場においては援助をし，幼児同士が関わりを深めていけるようにした。

そこで，身近な素材を使った迷路作りの活動を通して共通の目的に向かって，互いのイメージをすり合わせながら創造性をかき立てる楽しさを感じ，考えたり，工夫したりすることで，幼児は友達と一緒に遊ぶ楽しさや充実感を味わい，仲間意識が生まれ，協同性が育まれていくと考え，本活動を設定した。

（１）教材観

本時では，ダンボールや身近な素材を活用した迷路作りという共通の目的を持ち，友達とイメージを共有し，友達の思いや考えに共感する機会や経験を重ねることを重視する。友達と一緒に活動をする楽しさを感じ，互いの良さに気付くことで，新しいアイディアを生み出したり，自分の役割を考えて行動するなど，力を合わせて遊びを展開する迷路作りは協同して遊びを進めるのに有効な教材だと考える。

（２）幼児観

幼児の実態として，園内の環境に積極的に関わりながら遊びや活動に取り組み，その中で気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しいと感じながら遊びを進めている。一方で，自己主張が強い幼児同士が意見の食い違いで言い合いになることも多い。
友達と遊びや活動を共にし，互いに学び合える関係を築くためにも，自分の気持ちや行動を調整したすることも必要だと考える。

（３）指導観

教師は，幼児同士で活動を進めていく姿を捉え，必要に応じて思いや考えを引き出せるように配慮していく必要がある。友達とイメージを共有し，実現できるように十分な時間の確保と多様な材料を準備し環境を工夫することで，幼児の探究心を高め，新しい発想を生み出す。このような活動を通して，幼児が一人では得られない協同の遊びの面白さを仲間と共に味わうことができる。

友達と遊びを進めていく中で，いざこざや心の葛藤が起きた時には友達との関わり方を学ぶ貴重な場面と捉え，教師はすぐに仲介せず，幼児たちの様子を見守っていく。自分達で解決しようとする行動を褒めて認めながら，お互いの気持ちに気付くことで他者を意識するようになり，仲間意識が生まれ，協同性が育まれていく。

（４）活動計画

	日程	○ねらい　・内容	◇教師の援助　◆環境構成
1	12/3 （金）	○友達と考えや思いを出し合いながら，遊びを進めていく。 ・友達と関わりながら好きな遊びを十分に楽しむ。	◇幼児同士の関わりを見守りながら一人一人の様子や興味の傾向を読み取る。 ◆自分たちで遊びを進めていけるように用具を整える。サッカーボール，トイ，竹馬等
2	12/6 （月）	○自分たちでルールを考えたり，変えたりしながら，繰り返し遊びを楽しむ。 ・感じたこと，考えたことを伝え合いながら遊ぶ。	◇ルールを確認したり，新しいルールを考える姿を見守り，自分たちで遊びを進めていく楽しさを十分に味わうようにする。 ◆自分たちで遊びを進めていけるように用具を整える。サッカーボール，トイ，竹馬等
3	12/13 （月）	○互いに思いや考えを出し合ったり，認め合ったりしながら遊びを楽しむ。 ・自分の考えや思いを相手にわかるように伝えたり，友達の考えを聞いたりする。	◇友達と考えを出し合いながら，自分たちで遊びを進めていこうとする姿を認めたり見守ったりする。 ◆自分たちで遊びを進めていけるように用具を整える。サッカーボール，トイ，竹馬等
4	12/15 （水）	○様々な材料や表現方法にふれ，自分のイメージを表現する楽しさを感じる。 ・様々な材料に触れ，遊びのイメージに合わせて見立てたり，材料を使って遊びに必要な物や場を作ったりする。	◇様々な活動を通して，友達とイメージや思いを出したり，受け入れたりしながら遊ぶ楽しさを味わうようにする。 ◆空き箱，ダンボール，折り紙，画用紙，セロテープ，　ペン，色鉛筆等
5	12/16 （木）	○園内の環境にじっくりと関わろうとし，自分のしていることを周囲の友達と声を掛け合い，共有しようとする。 ・経験したことを遊びに取り入れ，イメージを膨らませて遊ぶ。	◇友達とイメージを共有し，遊びを広げて楽しめるよう材料・道具を提案し，一緒に準備をしていく中で主体的に進めていけるように配慮する。 ◆ダンボール，ダンボールカッター，空き箱，画用紙，ガムテープ，ペン等
6	12/17 （金）	○思い描いたものを作り上げていく楽しさや友達と一緒にイメージを合わせて作る満足感を味わう。 ・素材や材料の組み合わせを考えて試したり，工夫したりしながら作る。	◇幼児たちの目的がどこまで共通になっているか，一人一人が考えを出しているかなど，それぞれの取り組みを把握し，声をかけていく。 ◆ダンボール，ダンボールカッター，空き箱，画用紙，ガムテープ，ペン等
7	12/20 （月）	○考えたり工夫したりして，友達と一緒に一つの目的に向けて作りあげていくことを楽しむ。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えたり，友達の考えを聞いたりする。 ・友達を認めたり，励まし合ったりしながら，遊びを進める。	◇幼児一人一人のアイディアや取り組みの様子を認め，必要に応じてみんなにわかりやすく伝えていくことで，友達の考えの良さに気づいたり，認め合ったりできるようにしていく。 ◆ダンボール，ダンボールカッター，空き箱，画用紙，ガムテープ，ペン等
8	12/21 （火）	○友達とイメージを共有し，考えたり工夫したりしながら，遊びをつくる楽しさを味わう。 ・感じたことや考えたことを伝え合いながら遊びを進めていく。 ・友達と共通の目的をもち，迷路作りを楽しむ。	◇一人一人の考えを認めたり，受け止めたりしながら，教師も一緒にアイディアを出し実現できるようなヒントを助言する。 ◇遊びの紹介等，子どもたちの発表の場を設け，子ども同士の関わりや遊びの発展につなげる。 ◆ダンボール，ダンボールカッター，空き箱，画用紙，ガムテープ，ペン等
9 本時 公開保育	12/22 （水）	○友達とイメージを共有し，考えたり工夫したりしながら，遊びをつくる楽しさを味わう。 ・自分の考えを相手に伝えたり，友達の考えを聞いたりする中で自分の気持ちを整理しながら遊びを進める。 ・様々な材料にふれ，遊びのイメージに合わせて，見立てたり，材料を使って遊びに必要な物や場をつくったりする。	◇自分たちが作ったものが大事にされているという感覚や友達の刺激になるように周りの友達に紹介する場を設ける。そこで，友達の遊びの様子や考えに触れ，新たな気づきや遊びへの期待や意欲をもてるよう，幼児のつながりを意識した援助を行う。 ◆ダンボール，ダンボールカッター，空き箱，画用紙，ガムテープ，ペン等
10	12/23 （木）	○友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ・友達とルールや約束事を考えたり，確認し合ったりしながら遊ぶ。 ・自分たちで作ったもので遊んだり，やりとりをしながら遊びを進めていく。	◇共通の目的に向かって友達と思いや考えを出し合いながらじっくりと遊べるように，自分たちで遊びをすすめていこうとする姿を認めたり見守ったりする。 ◇必要に応じて教師が仲間に入り，遊びの方向性が見いだせるようにしていく。 ◆ダンボール，ダンボールカッター，空き箱，画用紙，ガムテープ，ペン等

（５）本時の指導案

令和３年１２月２２日（水）　　宜野湾市立志真志幼稚園　　年長　５歳児　すみれ組　　担任　安里　美和子

幼児の姿	・友達と誘い合って，自分の好きな遊びに取り組む幼児の姿が多く見られる。戸外では鉄棒や竹馬に何度も挑戦し，できるようになった喜びを友達や教師に伝え，嬉しさを共有しながらさらに挑戦するようになる。サッカー遊びでは作戦を立てながら自分たちで遊びを進めるようになり，夢中になって取り組むようになった。砂遊びでは，トイを使って水を流しながら傾斜があるともっと流れる等，友達と工夫したり考えを伝え合いながら遊びを楽しむ。 ・ダンボールを使って，迷路や家作りを楽しむ。友達と一緒に作ることで大きなものができるという経験を通して満足感を味わうことができたが，作った迷路が壊されたことに怒り，友達に対して強い口調で責め迷路作りから離れ別の遊びをしてしまう子もいる。気持ちを整えながら壊してしまった友達も仲間に入れ新たに迷路作りを楽しむ。	・○内ね容らい	○友達とイメージを共有し，考えたり工夫したりしながら，遊びをつくる楽しさを味わう。 ・自分の思いや考えを相手に伝えたり，友達の考えを聞いたりする中で，自分の気持ちを整理しながら遊びを進める。 ・様々な材料にふれ，遊びのイメージに合わせて，見立てたり，イメージに合った材料を用いて必要な物や場をつくる。

時間	幼児の活動	◇教師の援助，配慮　◆環境構成
8：15	**○登園する** ・友達や教師と朝の挨拶をし，持ち物の整理をする **○朝の活動をする** ・花への水やりをする ・園庭の落ち葉やゴミ拾いをする。 **○好きな遊びをする** 戸外：ブランコ，鉄棒，総合遊具，トイを使った砂遊び，フープ，サッカー，竹馬，縄跳び，キャンプごっこ 室内：ダンボール制作(家，迷路作り)，折り紙，リズム・楽器遊び，	◇笑顔で挨拶を交わし，温かく迎えながら一人一人の健康状態を把握する。 ◇自分たちの生活する場所をきれいにすることの気持ち良さを伝えながら一緒に活動をし，植物の生長や変化などの気づきを受け止め，共感する。 ◆遊びに必要な遊具，遊具を整理し，使いやすいように用意しておく。 ◇教師も一緒になって遊びに参加し，遊びの楽しさを共感したり，周りの友達に伝えていくことで遊びが深まるようにしていく。 ◇幼児の自発的な遊びを促すために，自由な発想やイメージを膨らませるような言葉かけを工夫する。
9：30	**○片づけをする** ・使った道具を片づける。 ・手洗い ・必要に応じて着替える	◇幼児のもっと遊びたち気持ちを受け止め，翌日も遊びが続けるような環境を整え，次の活動への意欲になるような言葉かけをする。
10：00	**○朝のひとときに参加する** ・歌やリズム遊びを楽しむ。 ・出席状況を確認する。	◇クラスのみんなで一緒に歌ったり手遊びをして過ごす楽しさを味わい，仲間意識やつながりが感じられるようにする。 ◇楽しかったこと，考えたことなどの伝えたい気持ちを共感し，必要に応じて言葉を添えたりしながら援助する。
10：15	**○遊びの振り返りをする** ・楽しかったことや気づいたことを友達や教師に伝える。	◇振り返りの時間では，みんなが楽しかったこと，困ったこと等を話し合い新たな約束事をきめたり力を合わせたことを全体の場で認めたりしていく。

◎遊び・予想される幼児の姿　◇教師の援助，配慮　◆環境構成

◎サッカー，竹馬，縄跳び，鉄棒，総合遊具
◎今まであまり運動遊びに興味がなかった幼児も友達の様子を見て挑戦してみようとしている。
◎サッカーでは，作戦を立てながら，自分たちで遊びを楽しむ。
◆自分達で遊びを進められるように用具を取りやすいように準備する。
◇運動遊びに初めて挑戦する子にはコツを伝えたりしながら楽しく取り組めるようにする。
◇教師も一緒に挑戦したり，一緒に数を数えたりすることで運動遊びの楽しさが感じられるようにする。
◇自分たちで遊びを進めている姿を認め，必要な場面で一緒に考えたり，自分たちで進めていく様子を見守ったりする。

◎砂遊び，キャンプごっこ，折り紙，ままごと，ダンボール制作
◎友達のやっていることに興味をもち，同じ物を作ってみたい，同じことをやってみたいという気持ちで遊びを楽しんでいる。
◎砂遊びではトイを使って，水やペットボトルのキャップが流れる様子を楽しむ。
◆それぞれの子どもがじっくり遊べる場所，必要なものや使いたい物が使えるように環境を整える。
◆遊びのイメージに近い材料を提示したり，よりイメージに近い材料を一緒に探して，やろうとしていることが実現できるようにする。
◇「仲間に入れて」「一緒にやろう」と誘い合って遊んだり，気の合う友達と一緒に過ごす中で安心して活動が進められるように配慮する。
◇友達同士のつながりがもてるように教師が一人一人の良さを伝えていく。
◇ダンボール制作では，ダンボールカッターを使うので，安全を確保しながら，周りの幼児にも注意喚起し活動を楽しめるようにする。

友達とイメージを共有し，考えたり工夫したりしながら遊びをつくる楽しさを味わう。

◎フープを用いたダンス・楽器遊び
◎自分達でやりたい楽器を選び，音を楽しむ。
◎曲に合わせて，体を動かす楽しさを味わう。
◆自分たちで機器操作ができるようにCDデッキに表示する。カスタネット，タンバリン，鈴を準備する。
◇季節感や幼児の興味に合わせた曲で楽しく遊びが展開できるように教師も一緒になって楽しむ。

反省，評価	・友達と思いや考えを伝え合い協力しながら，共通の目的に向かって遊びや生活を進められていたか。 ・幼児の心の動かされている場面（楽しい，面白い，すごい，不思議だな，嬉しい，悲しい，悔しい等）を捉え，場に適した援助ができていたか。

5　検証保育研究会

（1）保育者の振り返り

〇幼児自身の自発的な活動が多くなり，教師を介さないでも自分たちで遊びを見つけ進めていくことができるようになってきている。

●迷路作りを通して，子どもたちの思いや考えを主として活動を実施させたが，子どもたち同士の意見をすり合わせる手立てが少なかった。

●トラブルの場面で，自分たちで解決できるように見守っていたが，互いの思いが伝わらず，教師の援助が必要だと感じ仲介に入った。互いに謝らせて簡易的にその場を収拾してしまった。もっと時間をかけてどうして迷路を触ってしまったのか等，互いの思いを合わせられるような援助が必要であった。

●子どもたちとの話し合いの活動の場において当初，毎回，写真や動画を活用した遊びの振り返りを行う予定であったが，準備が行き届かず，数回に止まってしまった。

（2）意見及び感想

・友達や教師の話を聞こうという気持ちがあり，場の空気が読める子が多いが，話を始める合図や身振り手振りで示すことでより落ち着いて聞く態度が育つのではないか。

・子どもたちは，好きな遊びを見つけることが上手で自分たちできまりやルールを互いに伝え合いながら遊びを進めていた。その中で人との関わりを学んでいる。

・今日のねらいを達成するために教師の立ち位置が一つの活動に固執している場面が多く見られた。子どもたちは予測つかない行動をすることも念頭に置きながら教師の意図とは違う活動になっても気持ちを学級や部屋，周辺に向けることで全体の様子が見えてくる。柔軟性をもつことでいろいろな場所での遊びに関わっていける。

・自発的活動が十分に確保されているか，子どもたちの主体性と教師の意図とする思いのバランスはどうかを考えていく。

・幼児の自主的な活動が見られた。その中で，いろいろなトラブルも経験しながら日々，成長をしていることを感じた。

（3）指導助言(琉球大学教育学部　講師　宮城　利佳子)

・ドッチボール遊びでは，よく子どもたちが遊び込めていてよかった。保育者の介入なしに，子ども達同士でルールを守って遊ぶことができていた。途中で，ボールが当たったことを受け入れられずに泣いてしまう子がいたが，友達が寄り添うことでゲームへと再度参加することができていた。ルールのある遊びの中で，ルールを守ると遊びが楽しくなるという経験をたくさん積んできていることや他の子の気持ちへの配慮，気持ちの折り合いのつけ方を身につけていることを感じた。

・保育者が意図を持たずに子どもに合わせるのと，保育者のねらいは保持しつつも子どもの遊びに合わせることの違いは意識する必要がある。保育者が意図した遊びに固執するのではなく，柔軟に対応する必要がある。

・子ども自身がドキュメンテーションを見て遊びの振り返りをしている様子が見られたのがよかった。今後，ドキュメンテーションを作る際には，目的を意識する必要がある。保育者同士が見る目的なのか，保護者に見せる目的なのか，子どもと共有する目的なのかで，ドキュメンテーションの形態は変わるだろう。

・協同性を育む上で，重要なのは保育者の「つなぐ」意識である。クラス全体での話し合い活動の場面において，子どもと保育者の二者間の対話となっている場面が見られた。また，段ボール制作場面でも，子どもと保育者の対話が多く見られた。１年保育で，またコロナ禍で休園期間もあり，子ども同士の関係構築の途上であると思うが，だからこそ丁寧につないでいく必要性を感じた。

Ⅴ　研究の検証方法

1　幼児理解の方法について

幼児理解を深めるために，保育の振り返りや日々の記録が大切である。幼児一人一人の成長や心の動きを理解することでよりよい保育へとつなげていく。よって，検証保育においても，保育実践や幼児の育ちの記述記録を基本に写真やビデオ等で記録に残していく。また，教師間の情報交換，共通理解など多様な視点で振り返ることが，幼児理解を深めていく上で大切であることを踏まえ，実践していく。

本研究において，幼児理解の方法として，一人一人の幼児の心の動きを書いたエピソード記録（表６）を通して，幼児の思いや気付き等，幼児の変容を捉えることで，教師の援助を行っていく。

表６　エピソード記録（５歳児の指導計画と保育資料　増田まゆみ(2014 年)参考）

・はっとしたり、強く印象に残ったりした出来事を題材にする。
・出来事とともに、子どもの心の動きやそれを保育者がどう受け止めたかを書く。

さらに，幼児の遊びの様子を可視化し，新たな気づきを得たり，活動を深めるための援助の工夫として保育ドキュメンテーション（表７）を作成し，幼児と共に活用していく。

クラス活動において，保育ドキュメンテーションを取り入れることにより，教師と幼児，または幼児同士で遊びや活動を共有し，遊びがより深まると考える。

表７　保育ドキュメンテーション（筆者作成）

保育の場面において幼児の活動を写真や動画，音声，文字などで視覚的に記録するというもの。幼児自身の言葉や行動，教師の視点から見た幼児の思考・探究活動を具体的に記録することで，言葉だけでは伝えにくい実際の様子を詳細に記録でき，幼児の成長過程が見えることによって，次の保育実践への手立てとなる。

保育ドキュメンテーションによって，教師・保護者・幼児の三者が共に効果的な遊びや活動の振り返りができる。

2　教師の援助の工夫について

幼児と共に遊びの振り返りをし，明日の遊びに期待感を持たすことや幼児同士の遊びをつなぐ手立てとしての教師の援助の工夫を表８にまとめた。

表８　　幼児同士の遊びをつなぐ教師の援助の工夫

	教師の援助の工夫
遊びの「可視化」	・幼児同士が遊びや活動の様子を振り返ることができるように保育ドキュメンテーションを作成し，掲示することで，次への遊びや活動につなげる。
遊びの「共有」	・自分が経験した遊びを伝え合うことでクラスの友達の経験につながるような場を作り，友達の思いや考えに共感する。
遊びの「連続」	・自分の思いや考えを受け止めてもらえた喜びを幼児同士が感じられるように促し，幼児同士をつなぐ援助をする。

3　評価の視点について

検証保育の評価では，幼児が友達と試行錯誤しながら活動に取り組む中で協同性が育まれる過程に視点をあてていく。

幼児の遊びや活動を楽しむ様子を捉え，友達との関わりやどのように遊びを進めているのか観察を行い，エピソード記録を取る。記録をもとに，幼児の育ちや学びの過程，友達と同じ目的をもって取り組む様子を踏まえて,遊びの中からどのように変容したのか焦点をあてながら,幼児の育ちを捉え,評価の視点とする。

Ⅵ　研究視点の検証

１　保育の振り返りとエピソード記録から幼児の姿を捉える

研究視点
　幼児が主体的に遊びに取り組めるような援助や環境構成を工夫することで，友達と目的を共有しながら，より関わりを深め，協同性が育まれていくであろう。

　研究テーマに基づいた保育実践を行い，保育の振り返りや写真やビデオ記録，エピソード記録を通して，幼児の姿や変容をもとに検証を行う。その対象を「クラス全体」と「抽出児Ａ」「抽出児Ｂ」とし，この２人がどの様に変容したかを検証する。

　ダンボールや身近な素材を使って迷路作りを楽しむ中で，友達と同じ目的をもつことで自分の思いや考えを相手に伝えながら，共に思考錯誤する様子や友達や教師との関わり方を捉え，幼児の心の育ちに焦点をあてる。また，研究視点に基づく教師の援助の工夫を通して，検証の効果性や幼児の変容を捉えていく。教師による援助の工夫を二重線「＿＿」，幼児の心の動きや変容を波線「～～」，反省や課題を点線「……」で示す。

２　検証前の姿

検証前の幼児の様子	教師の願い
クラス全体 　すみれ組は，進級児３名，保育園より入園２４名の計２７名年長クラスである。全員が集団生活の経験があり，友達と誘い合って，戸外で体を動かして遊んだり，園のあらゆる環境に興味や関心をもって，自分たちで遊びを楽しむ。しかし，コロナ禍で休園等の影響もあり，子ども達の【図１　協同して遊ぶようになる過程】においては，本来，第Ⅲ期「人間関係が深まり学び合いが可能となる時期」が望ましいが，幼児の実態として友達とのいざこざや葛藤を味わう場面等が多くあり，本来の発達時期より少し遅れが見られ，第Ⅱ期「遊びが充実し自己を発揮する時期」に該当すると考えられる。	・友達とのいざこざを経験し，互いに折り合いをつけることでさらに，友達との関係に深まり，人と関わる力も育つことで，【図１　協同して遊ぶようになる過程】の第Ⅲ期「人間関係が深まり学び合いが可能となる時期」へと成長が見られるであろう。友達と同じ目的を共有しながら創意工夫した活動の楽しさを味わってほしい。
抽出児A 　４月に入園した男児。入園前は集団経験があり，友達と一緒に遊ぶことで安心しながら園生活を過ごす。遊びや活動への興味・関心が低く既存の遊び道具で遊ぶことが多かった。教師が虫捕りや空き箱を使っての制作活動等の遊びに誘うも興味を示すことはなく同じ遊びを好み，遊びの発展性は見られなかった。	・幼稚園のあらゆる環境に興味や関心をもって，取り組みながら遊びの幅を広げてほしい。 ・身近な材料を使って試したり工夫したりする楽しさを十分に味わってほしい。
抽出児B 　４月に入園した男児。入園前は集団経験あり，同じ保育園出身の友達を頼りにしながら遊びの範囲を広げていた。初めて取り組む活動に対しては不安になり，周りの友達の様子を傍観していたが，徐々に参加できるようになる。自分が経験した遊びや活動は自信をもって取り組んでいた。 　友達との関わりの中で癇癪を起すことも多く，友達に手を出すこともあった。	・自分の経験した遊びを友達と一緒に行うことで，たくさんの友達との関わりを深めながら，遊びや活動に取り組んでいってほしい。 ・友達の思いに気づきながら，一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。

３　検証保育

１２月１５日（水）【検証場面④】

幼虫のお家を作ろう

クラス全体　抽出児A

≪背景≫

　登園すると自分たちの生活の場を整えてから自発的活動を楽しむ子どもたち，草花に水やりをしたり，園庭に落ちている落ち葉拾いに積極的に取り組む様子が見られる。園庭がきれいになる心地良さを味わいながら友達と一緒に今日もどんな遊びを楽しむか期待感でいっぱいである。さっそく，A児とB児が園庭でオオゴマダラの幼虫を見つけ，周りの友達や教師に見せて駆け回っている。

≪エピソード≫

　A児「先生～幼虫を見つけたよ」と目を輝かせながら，伝えに来た。蓋付きの小さな箱の中に大事そうにオオゴマダラの幼虫を入れて，幼虫を触りながら観察を楽しんでいる。A児「お家を作ろうよ」と提案し周りの友達も賛成し，幼虫のお家作りが始まった。A児「二階建てがいいな」C児「滑り台も作ろう」と小さな箱を切ってテープでつなげ広くした。真四角の箱から自分たちがイメージするお家の形へと作り出す面白さを感じなが

写真１　オオゴマダラの幼虫を観察する幼児たちの様子

ら楽しんでいる。
　子どもたちは自分の思いや考えを出し合ったり，友達との会話を楽しみながら幼虫のお家作りを進める。その会話からオオゴマダラの蝶は赤色が好きだという話で盛りあがり，室内にある赤色の物を探す遊びへと展開しながら，制作活動に夢中になって取り組んでいる。D児が「赤色の花を持って来るね」と言って，園庭の花壇から摘んで来た赤い花の上に幼虫をのせて，「蜜を吸っているよ」「美味しそうだね」C児「幼虫も仲間が欲しいはずね」と幼虫の動きを楽しみながら観察をする。「お腹が空いているんじゃない」D児の言葉で，幼虫の気持ちに寄り添い図鑑を持って，食草探しに出発した。図鑑には『ホウライカガミ』と書かれていた。園庭のどこにホウライカガミはあるのか，探し続ける子どもたち教師が「幼虫を見つけた近くにホウライカガミはあると思うけどな？」と伝えると，幼虫を見つけた場所に走りだした。木の枝に『ほうらいかがみ』と書かれた看板を見つけ，葉っぱを取るため見上げると，「幼虫がいる」と幼虫を発見した。「あそこにもいるよ」と大喜び，見つけた幼虫を捕ると４匹になった。「もっと広いお家にしよう」とお家作りの続きを楽しんだ。壁や屋根も作り幼虫のお家が完成した喜びを友達と共有した。また，クラスの集まりの時間にみんなに紹介したことでさらにA児は満足感を味わうことができた。

≪考察≫

　身近な生き物に興味をもつことができたA児からの発案でさまざまな素材を使っての幼虫のお家作りが始まり，友達と一緒にイメージを共有し，友達のよさや考えを受け入れ，言葉のやりとりが豊かになり楽しむ姿が見られた。幼虫を捕まえた嬉しさもあり，周りの友達も「テープ取ってくるよ」「ペン持ってくるよ」と協力しながら幼虫の家を作っている。みんなで幼虫を育てたい気持ちがあり，また，A児も自分の思いや考えを出し合いながら友達と同じ目的を持って作り出す楽しさ，嬉しさを感じながらの制作活動であった。A児の活動が広がった場面が多く見られた。

１２月１６日（木）【検証場面⑤】

迷路作りが始まるよ

クラス全体　抽出児B

≪背景≫

　昨日の幼虫のお家作りの経験から，A児「幼虫の迷路を作ろう」と提案し，周りの友達も「うん。作ろう」と賛同した。「自分たちも遊べる迷路にしよう」と保育園で迷路遊びを経験したB児が，A児，C児を誘って，迷路作りに取り掛かるが，どこに作ろうか，みんなで遊べる場所を探し回った。外で作ろうか，室内は狭いからどうしょうかと悩んでいる様子が見られた。教師がテラスを示し，「ここは広いしみんなで遊べそうだね」と伝えるとテラスでの迷路作りが始まった。

写真2　迷路作りの場所を探す幼児たちの様子

≪エピソード≫

　ダンボールカッターを片手にダンボールを切りながら，「大工さんみたい」と最初はダンボールカッターを使うことを楽しんでいた。切り開いたダンボールを地面に張り付け，少しずつ迷路の形になっていくことを楽しみながら，「仕掛けはどうする？」「はずれの道はどこにする？」と互いにイメージをすり合わせながら取り組んでいる。迷路の形が出来上がると周りの友達も興味をもってやって来る。「何作っているの？」「一緒にやってもいい？」と迷路作りに参加する友達も増え，番号表やドア，看板等のアイディアがどんどん広がり形になってきた。

写真3　番号表やドアを作る幼児たちの様子

　そこへE児が突然，迷路の中に入って来た。その様子を見ていたB児は「Eは仲間じゃないから入ったらだめ」と強い口調で言い，E児を迷路作りに参加させなかった。その後E児はクラス活動にも入れなかった。教師はE児の気持ちに寄り添いながら，B児と一緒に活動ができるようにと話し合いをした。B児には相手の気持ちを考えることの大切さを伝えていった。

≪考察≫

　自分が経験した遊びに自信を持って取り組むB児，迷路作りでは，ダンボールを立ててつなげる作業に飽きてしまう場面も見られた。「絵を描こう」「ペン持ってきて」等，C児と一緒にゲームのキャラクターの話で盛り上がり，なかなか迷路作りが進まず，それぞれが別々の目的を持った活動になっていった。作っている途中でいろいろなことに興味があり，活動が進まない場面も見られ，教師は互いのイメージをすり合わせて一緒に作る楽しさを味わえるように声かけをした。また，別の友達が迷路作りに参加したことで，友達のアイディアを聞き，「それ，いいね。作ろう」とB児はさらに面白いものを作ろうという意欲的な表情を見せた。

　B児は自分の思いが通らないと相手に対して強い口調で責めることもあったので，その都度，教師の援助を必要とした。

１２月１７日（金）【検証場面⑥】

トンネルができたよ

クラス全体　抽出児B

≪背景≫

昨日はダンボールの数が足りなかったこともあり，迷路が完成することができなかった。大きな段ボールを準備し環境を整えた。登園するとすぐに大きな段ボールを発見したB児が，迷路の続きをしようと張り切っていた。トンネルに見立てて昨日作った迷路と合体させると「迷路が長くなった」「行き止まりを作ろう」とイメージが膨らんできた。その様子を見た周りの友達も迷路作りに参加するようになった。

≪エピソード≫

迷路が長くなるにつれて，いろいろなアイディアが浮かんでくる。ダンボールを切って，横から道を作ることになったB児「ぎりぎりまで切ってよ，じゃないとここが外れてしまう」と自分がイメージする道づくりを楽しむ姿が見られた。C児「おれはどこ切ればいいの？」B児「なんでもいいよ」C児はどこを切ったらいいか困っている様子。C児は迷路作りよりもガムテープの切れ端を見つけ，仕掛け作りに興味を持って取り組んだ。「これできるかな？」「ここに仕掛けよう」とみんなとは違う活動を楽しんでいた。

写真4 トンネルをつなげて迷路作りを楽しむ幼児たちの様子

数名の友達が迷路に興味を持ち始め，迷路作りに参加することにより，それぞれのイメージや考えを出し合い，迷路作りに広がりが出てきた。作っている途中，迷路に興味があり中に入って遊びはじめる友達に対して「まだ，完成していないので通れません」と声をかけたり，「ただいま，工事中です」と書いて看板を作り周りのみんなに知らせた。

≪考察≫

B児とC児はそれぞれ自分のイメージを形にすることを楽しんで活動を継続していた。一緒に活動を楽しむというよりはそれぞれのイメージを形にしようとしていた。他の友達が加わることで，活動に広がりが見られ，B児とC児によい刺激となった。C児は迷路を作りたい気持ちはあるがどのようにしたら，迷路が長くなるのか等，試したり工夫したりする姿が見られず，教師はC児が自分で考えたことを実現できる援助の必要性を感じた。また，B児とC児の思いや考えを合わせながら，一緒に作る楽しさを味わえるような手立てを行っていく。

週明けも迷路作りが楽しく継続した活動となるように，ダンボールやガムテープ等，使うと思われる道具を整え，幼児が自分たちで迷路作りに取り組むことができるように準備する。

１２月２０日（月）【検証場面⑦】

迷路の引っ越しだ

クラス全体

≪背景≫

登園するとテラスに固定していた迷路の一部が壊されていた。その様子を見た子どもたちは「次は外で作る？」「すみれ組で作る？」と迷っている様子が見られた。また，迷路の場所探しからスタートした。教師が幼稚園全体の共有スペース『わくわくの部屋』で作ることを提案すると，「いいね。わくわくの部屋で作ろう」と賛成し，たくさんのダンボールを運んで，昨日から迷路作りに参加したF児を中心に迷路作りが再開した。

≪エピソード≫

「迷路の入り口どこにする？」「ここから作ろうよ」自分たちで考えを出し合いながら迷路作りが始まった。制作遊びが好きなF児が加わったことで，自然と役割分担しながら迷路を作り続けた。「中の部分が弱いね」「倒れそうになる」トンネルが崩れないように中から補強するなど自分たちで考えながら進めている。また，迷路が壊されないか心配になるC児に対して「みんなで頑張ればすぐできるよ」とC児を励ますF児の様子や，A児「AはBと相談するから，CはFと相談して」と声をかけ合いながらそれぞれの思いや考えを出し，同じ目的を持つ楽しさを味わっている。迷路作りの活動が進む中，C児「Cは何をすればいいの」と友達に聞いて回っていた。みんなと活動をすることの大切さを感じているようであった。教師がC児が得意としている仕掛け作りをすることを提案すると，明日は仕掛け作りを楽しみにしているC児の様子が見られた。

写真5 ダンボールが倒れないように中から補強する幼児たちの様子

≪考察≫

迷路作りに制作遊びを得意とするF児が加わったことで，F児のアイディアに共感することで迷路作り

の活動がさらに広がりが見られるようになる。制作遊びの経験が少ないA児，B児，C児にとってもよい刺激となり，自分も一緒に作りたいという気持ちが芽生えてきた。友達と一緒に作る楽しさ，面白さを感じている。友達と同じ目的を持って活動することで，自分の思いや考えを友達に伝えながら，互いのイメージを共有し合う姿が見られたのではないか。

C児も「Cは何をすればいいの？」と周りの友達に聞きながら，迷路作りに取り組むようになった。みんなと一緒に同じ目的を持って作ろうという気持ちが芽生えてきたと考える。

１２月２１日（火）【検証場面⑧】

なんで壊したの

クラス全体

≪背景≫

今日で迷路を完成させて，お客さんを呼ぶことを楽しみしていたが，登園すると迷路が壊されていた。怒ったG児やH児が迷路を壊してしまったＩ児とＪ児の２人に対して「直せないのに何で壊すの」「弁償してよね」等，強い口調で責める場面があった。Ｉ児とＪ児は委縮してしまい，自分の気持ちを相手に伝えることができず泣いてしまう。K児が仲介に入るが，互いに納得しないままの状態が続く，教師は幼児同士のやりとりを見守っていたが，仲介に入ることにした。互いの気持ちを汲み取りながら一緒になって作ることを提案すると互いに受け入れたので，そこから一緒に迷路を作ることになった。

写真6　自分たちで話し合いをする幼児たちの様子

≪エピソード≫

前日までの迷路作りの経験もあり，スムーズに迷路作りが進んでいったＬ児も遊びに加わり，じっくりと取り組む様子も見られた。「これで楽しい遊びができるよ」「ここにドアを作って道を作りたいな」ダンボールに穴を開けて窓を作ったり，行き止まりのトンネルもつなげたりしながら自分のアイディアが実現する楽しさを味わいながら活動を進めていた。迷路が完成に近づくにつれて，興味をもった子が迷路で遊ぶ様子が見られた。Ｆ児「まだ，作っている途中だよ」と迷路で遊んでいる子に伝えた。迷路の中で走る友達もいて，迷路が壊れそうだという事に気が付き，約束事を決めた方がいいんじゃない？と教師が提案をした。明日，Ｌ児が約束事の看板作りをすることになり，Ｌ児はさっそく約束事を考えることにした。

写真7　一緒に迷路作りを楽しむ幼児たちの様子

帰りの集まりの時間にクラスの友達と遊びの振り返りをしながら，Ｆ児は，自分たちが取り組んでいる迷路作りの様子を写真を活用してのドキュメンテーションや約束事を伝え，明日から迷路に入って遊ぶことができるようになったと知らせた。教師は迷路が完成していく過程を説明し，みんなで約束事を[illegible]ができると伝えた。

写真8･9　写真を活用して、自分たちの遊びの様子を紹介し、クラスのみんなで遊びや活動を共有する幼児たちの様子

写真 10 ドキュメンテーションを通して友達の遊びの様子を見る幼児たちの様子

≪考察≫

大きなトラブルもあり，幼児が互いに葛藤する場面も見られた。互いに自分の思いを主張し，相手の思いを受け入れるよい機会だと思って見守っていたが，教師は，制作時間に追われ解決することを急いでしまった。仲介に入り，迷路を壊してしまったことに対して謝ることを優先にした。幼児同士が互いに思いが近づいていける援助の工夫が必要であったと考える。

クラスの集まりの時間に写真を活用して迷路作りの様子を見せて完成したらみんなで遊ぶことができるということを伝えることで，周りの友達も興味や関心を持ち，遊びに参加できるのではないかと考える。

１２月２２日（水）【検証場面⑨】

看板を作ろう

クラス全体

≪背景≫

迷路が完成すると，みんなで楽しく迷路遊びができるように，Ｌ児はお知らせしたい約束事を書いたり，ダンボールの側面に好きな絵を描いたりする年中児の姿が見られた。「迷路の中に入って遊んでもいい？」「どこから入るの？」興味をもった子が次々と迷路遊びを楽しむ様子が見られた。

≪エピソード≫

Ｌ児は昨日の活動の続きをするため，お知らせ作りに取り掛かった。以前，ジュース屋さんでの経験を思い出し，教師に大きな紙を求め，自分の思いや考えを文字にして表すことができた。教師も一緒にみんなとの約束事を確認しながら，迷路遊びが楽しい活動になるようにＬ児と一緒に考えた。その様子を見た，年中児のM児が自分も大きなが紙が欲しいと教師に伝えてきた。画用紙を準備すると思い思いに絵を描き始めた。「Mが描いた絵をここに貼ろうかな？」とM児が描いた絵を他の友達にも披露することにした。また，直接，ダンボールに描いていいことを伝えると，M児は喜んで取り組んだ。その姿を見ていた，Ｆ児が「Mは小さいけど，絵が上手だね」と褒める場面が見られた。教師もM児が描いた絵に共感することでM児も満足した。

写真 11･12　約束事を書いて看板を作ったり、絵を描いて楽しむ幼児たちの様子

片づけの時間になり，園全体の場で遊びの振り返りを行うことになった。迷路作りに携わったメンバーが積極的に前に出て，迷路の場所を紹介したり，Ｌ児が書いた約束事を集まっていた友達に伝えることができた。５つの約束事をしっかりと聞いていた友達から「上履きはどこに置くの？」と質問もあった。Ｌ児は迷わず，「隣の水槽の椅子の所」と答えることができた。全体の場で紹介することで今まで迷路遊びに興味がなかった子へ周知することができた。

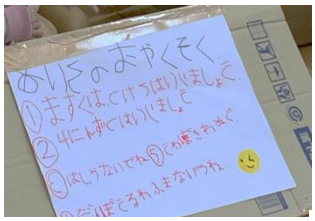

写真 13　楽しむ迷路遊びができるように書いた看板

写真 14　迷路遊びでの約束事をみんなに伝える幼児たちの様子

≪考察≫

今まで迷路作りに興味を示さなかった園児も迷路が徐々に形になっていくことで，興味を持ち始めることができた。また，M児の得意とする描画活動の様子を周りの友達や教師も知るよいきっかけとなったと考える。ダンボールを組み立てる活動だけでなく看板作りや絵を描く活動もすべて含めてみんなで協同した迷路作りになったのではないか。

また，全体の場で今日の遊びの振り返りをすることによって，他の友達にも周知することができ，明日の遊びへの期待感を持つことができた。友達からの質問に対してＬ児は自分の考えをしっかりと伝えることができた姿から日頃の遊びや生活の経験がいかされた場面を見ることができた。

１２月２３日（木）【検証場面⑩】

約束事を守って迷路で遊ぼう

クラス全体　抽出児A

≪背景≫

「36.５度です。迷路に入って下さい」と友達の額に体温計をかざしながら，体温を計る係，店員役になり，迷路の入り口に座って迷路の中で遊んでいる人数を確認し，「今，４名入っているから待ってね」「上履きはちゃんと並べてね」等，迷路で楽しく遊ぶための約束事を友達に伝えながら店員になりきって自分たちで遊びを進めている。迷路の中ではトンネルに隠れたり，走ったりとそれぞれが思い思いに迷路遊びを楽しんでいる。

≪エピソード≫

A児「ダンボールでチケット作ったほうがいいんじゃない？」と友達に提案をし，友達もA児の提案に快く賛成し，ダンボールを探すと四角の形に切って，「カードにしよう」と作り始めた。カードが出来上がると，迷路の場所に走っていく。店員さんにカードを提示して，迷路の中で駆け回りながら楽しむ。迷路の中で隠れたり，追いかけっこを楽しむ

写真 15　店員になりきって、遊ぶ幼児たちの様子

友達に対して「迷路では走らないで」「迷路が壊れてしますよ」と呼びかける店員さん。迷路が少しずつ壊れていく様子を見て，教師が「どうしょうか?」と問いかけるとA児「また，直したらいいよ」と，友達が楽しく遊ぶ様子を見ていた。

≪考察≫

前日に全体の場で迷路の紹介をしたことで，年中児も興味を示して，遊びに参加してきた。迷路の中で夢中になって遊ぶ子もいれば，店員役として約束事を守って遊べるように見守る子，それぞれの自分の役割を楽しむ様子が見られた。年中児のN児も店員役として友達が迷路で遊んでいる様子を見て「先生，迷路の中で遊んでいる人，いっぱいいるよ」「声かけても聞いてくれない」と困っている場面も見られた。教師はみんなで約束事を守って，楽しく遊ぶことできるように声かけの援助を行っていく。夢中になって遊んでいた子も約束事に気付き，守りながら遊びを進めていた。その様子を見たN児も納得した表情が見られ，引き続き店員役になりきって遊びを楽しんだ。

迷路作りの途中で他の遊びを楽しんでいたA児だが，迷路作りの当初から関わったという気持ちも見られ迷路遊びの紹介をしたり，友達が楽しく遊ぶ様子を見守りながら，A児も継続して遊びを楽しむ様子が見られた。

4　検証のまとめ

本研究では，幼児同士が互いに共通の目的を持って遊びや活動を進めることを通して，友達と関わって遊ぶ楽しさを味わい協同性を育むことができるよう援助の工夫を行った。

幼児がイメージしたものが十分に作れるよう様々な素材や用具を準備し，環境を整えた。また，遊びを進めながら幼児と共に迷路作りに必要な材料を考えながら環境を再構成していくことで幼児は意欲的に制作に取り組むことができた。さらに，友達と考えを出し合いながら相手の意見に「それ，いいね」「やってみよう」と賛同することで，一緒に試したり，工夫して迷路作りの過程を楽しんでいる姿が見られた。これらの幼児の変化には，日々の保育の振り返りやエピソード記録を用いて，幼児理解を深めながら，幼児の心の動きを捉え，援助の方法も様々に工夫したことが効果的であったと考える。

幼児同士の遊びの楽しさを共有するために，遊びの振り返りを行い，写真のあるドキュメンテーションを活用して遊びを紹介した。写真を通して友達の遊びを知ることで，面白そうだな，一緒にやってみたいなという気持ちが芽生え，迷路作りに参加する友達も増えたことで様々なアイディアが生まれ，遊びに広がりが見られた。

抽出児Ａに関しては，遊びや活動の範囲が狭く，同じ道具での遊びを楽しむことを好んでいたが，幼虫の家作りをきっかけに，迷路作りでは抽出児Ａの思いや考えを引き出しながら，友達と同じ目的を持って遊びを継続できるように抽出児Ａの思いに共感しながら援助を行った。「いいこと考えたよ」「ここをトンネルにしょう」等，抽出児Ａのアイディアを友達と共有し，自分のイメージしたことが形になる面白さ，楽しさを味わうことができた。みんなで作り上げた満足感を感じながら遊びを進めていくことで，本児の自信となった。「明日も続きをしようね」と明日への期待感も高まり，日々継続しながら遊びを進めていく姿が見られた。

抽出児Ｂに関しては，友達に対して強い口調で言う場面も見られたが，相手の気持ちがどうだったのか一緒に考えていけるように援助を行い，相手を受け入れ一緒に遊びを進める楽しさを味わうことができた。また，以前経験した迷路作りに取り組む中で，自分の思いや考えを友達に伝え，一緒に作り上げる面白さを味わうことができ，自信となった。

以上のことから，「幼児が主体的に遊び取り組めるような援助や環境構成を工夫することで，友達と目的を共有しながら，より関わりを深め，協同性が育まれていくであろう」という研究視点が検証できたと結論づける。

Ⅶ　研究の成果と今後の課題

1　研究の成果

（1）友達と同じ目的を持って遊びや活動をすることで，共通の目的に向かい楽しさを知る。それを通して友達の考えや思いを聞くことの良さを感じた。

（2）友達と共通の目的を持って遊びが継続できるための環境構成を工夫し，援助をすることで，幼児は友達と一緒に遊ぶことを通して楽しさや充実感を味わい，仲間意識が生まれ，協同性が育まれた。

（3）遊びや活動の中で，同じ世界を共有する楽しさ，作り上げた一体感などを味わうことで，さらなる意欲を高め次の遊びへとつながっていった。

２　今後の課題と対応策

（１）友達と話し合い，協力して作っていくときには幼児同士で十分にやりとりすることを大切にし，教師がまとめすぎないようにする。

（２）幼児が仲間と共に一人では得られない遊びの面白さを味わえるように，それぞれの活動が互いに関連し合って新しい活動が生み出されるような保育を，見通しをもって構想していく。

（３）幼児同士のいざこざや葛藤の場は，謝ることを優先にしてきたが，互いの思いを近づけていけるよう，話し合いを深めていく援助を今後の保育で実践していく。

＜参考文献＞

（1）文部科学省　2018　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
（2）国立教育政策研究所教育課程研究センター　2009　『保幼児期から児童期への教育』　ひかりのくに
（3）無藤隆　編著　2018　『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』　東洋館出版社
（4）塚本美知子　編著　2018　『対話的・深い学びの保育内容　人間関係』　萌文書林
（5）小田豊・奥野正義　編著　2005　『保育内容　人間関係』　北大路書房
（6）森上史郎・柏女霊峰　編　2016　『保育用語辞典』第８版　ミネルヴァ書房